電子複写不可

32A

昭和三四、四、二五

参謀八原大佐に対する質問並回答

防衛研修所戦史部

沖縄 61

沖61

元
32A 参謀八原大佐に對する質問並回答　（GHQ戦史課の）

一九四九四一五　藤原

1. Q。終戦後沖縄作戦に關して公式に如何なる報告を何處にしたか

A。一九四七、四初め留守業務勤務中軍禁下各兵團、部隊の作戦記録を纏め同部に提出した

一九四七、四初めNYK G-2に召喚せられウイッケル氏の調査を受け二日間に亘り回答した

2. Q。最近古川成美氏著の名儀で發行せられた〝死生の門〟は八原氏の執筆に成るものか此の資料は八原氏の供述として戦史の資料に公式に引用出來るか

A。本書は自分が書き綴つて居る回想録を材料として古川氏が編輯したものである

本書の内容中史實に關する件は自分の立場に於て眞實であること

とを保證し得る但し形容の脚色は古川氏の創作である史實に關する限り戰史の資料として（八原氏供述の）公的に引用せられて差支ない

Q。その回想錄を借用出來るか　私限りで

A。全く私の秘藏するものではあるが必要とあれば貸與する

3. Q。一九四四年夏に於ける沖縄に對する增强兵力の到著狀況

A。9D　司令部　新田原より飛行機輸送　10/7－12/7

部隊主力（沖縄本島）　中旬/7

（宮古島）　下旬/7

（沖縄本島）　下旬/7－上旬/8

（〃）　中旬/8

62D 24D 28D

軍直部隊　上記兵團に併行し概ね九月末迄に到著

二

4. Q。一九四四年秋（9D抽出せらるる以前）の32A作戰計畫の根本方針は水際殲滅主義か　沿岸決戰主義か　持久方式か

又北、中飛行場は確保する決意であつたか

A。沿岸決戰主義であつた　勿論北、中飛行場は確保の決意と自信とを持つて居た

Q。沿岸決戰主義とは一敵に委ねる地域的限界及び攻勢移轉の時間的計畫如何

A。上陸地點かな一し二粁縱深程度に敵第一次上陸部隊主力を上陸せしめその蝟集地域は海岸陣地に展開せる全砲兵戰力の威力を統一發揮した後攻勢を斷行する

米軍上陸開始（X日）後二日目（X+1）の夕方から砲兵射擊を開始し後半夜歩兵の攻勢を斷行して一擊に敵を擊滅する

Q。飛行場は敵に委する結果となるか

A。北飛行場の大部を除き我が陣内に包攝する

三

Q。本攻勢成功の確信の度は

A。第一次の上陸部隊は撃破し得る確信があつた

Q。水際撃滅主義を採らなかつた理由は

A。米軍上陸部隊の退却若くは他正面への上陸を許さない様に敵を絶對絶命の立場に置いて決戦を強要する爲である

5.

Q。一〇號作戦準備（一九四四―三）捷號作戦準備（一九四四―七）天號作戦準備（一九四四―一二）各期に於ける32A作戦任務の推移如何

A。一〇號は航空作戦準備特に基地の建設とその警備が任務の内容で一般的には沖縄諸島の防衛であつた

捷號の爲に改めて軍の任務に關し命令を受けなかつた然し捷號作戦の計畫は示されたこを以て任務附與とも考へられる

Q。捷號計畫に伴ふ軍の任務を如何に諒解せしや

A。決戦軍に變つたと云ふ認識を持つた

Q。天號の任務は

A。捷一號が發令せられた時32Aとしては全海、陸、空軍を挙る捷三號決戦は最早生起することはない從つて32Aの任務、性格が抑久的なものに變化する様に考へられたがそれが曖昧であつた然しこを大本營に伺ふことはしなかつた大本營からも捷一號發動後軍の任務に關して命令を貰つたことはない

Q。捷號計畫の中に捷一號發動の場合他方面の軍の任務を示されて居るのではないか

A。示されて居なかつたと思ふ

Q。大本營は二月三日大陸命一二四二號を以て10HA司令官に新任務を示されて居るが10HA司令官はこに基いて32Aに命令を與へたのではないか

A。命令を受けなかつたと思ふ

記憶にない

但し一月下旬か二月上旬頃10HA参謀長諫山春樹中將が大本營に出頭し其の歸途次のことを傳へた

(1) 次は本土決戰である

(2) 沖縄や臺灣は前進部隊である

(3) 若し北、中飛行場正面に敵が上陸して來た場合は大本營は斷呼たる攻勢を要望して居る

6. Q 9D抽出に關し32Aの意見具申の内容は

A (1) 沖縄本島の防衛に責任を持てない

(2) 9D抽出した後他方面から別の兵團を沖縄本島に增加せらるる樣ならば9Dを沖縄に殘して他方面の師團を臺灣に抽出され度

(3) 32Aから一ケ師團を抽出せらるるならば宮古島の28Dを抽出して貰ひ度い

(4) 沖縄本島から師團を抽出せらるる位なら寧ろ32Aの全力を比島の決戰場に轉用され度い

7. Q 9Dが抽出せられ84Dの增援が中止になつた時32Aは宮古島の兵力を沖縄に轉用する著意はなかつた

A 無かつた

Q 大本營に對する意見具申の一項目に28Dの抽出を揭げられて居るではないか

A 軍司令官が位置する本島の防衛强化の爲に離島から兵力を拔くことは統帥上難點があると思ふ

又船舶の準備其の他大本營を煩すことが多いから困難と思つた

Q 9Dの抽出、84Dの增加或は兵器彈藥の增送又は28Dを轉用する爲の船の準備等の諮問を通じ32Aが任務完遂のため10HA中大本營に更に熱意を披瀝してその意志を比司に連絡させる遺憾はなかつたか

A。或は左様な點もあつたかも知れない

Q。9Dを抽出してから氣合が抜けて了つた

A。9Dの抽出が大本營に對する32Aの信頼、感情を根本的に壊れて了つたため爾後の意志の疎通が圓滑に行かなかつたのではないか

Q。そう云ふ點も或程度有つたかも知れぬ

A。9D抽出の感作如何

Q。戰力の減少のため作戰計畫の變更、配備の變更、全將兵に與ふる心理的感作等深刻なる感作を及ぼした

8. Q。一九四四年末から一九四五年初頭に亘る32Aの〝沖縄に對する米軍の企圖〟を如何に判斷せしや

A。捷一號の失敗と共に米軍の次期進攻方向は南西諸島特に沖縄諸島の算が最も多いと判斷した沖縄本島が其の中でも一番公算が多いが宮古島に來攻することもあり得ると考へた

一九四五年二月頃になると沖縄本島に來攻するとの判斷が感覺的になつた當時10HAや大本營から來る參謀も同樣の見解を述べて居たその時期は三月一四月と考へた

軍は如上の判斷に基いて全軍將兵に〝米軍は三月か四月は此の沖縄に必ず來攻すべし〟と彼等の覺悟を促し一兵に至る迄徹底させた

9. Q。捷三號準備に於て採用した〝北、中飛行場を確保しつつ攻勢に轉じて米上陸軍を沿岸に減滅する〟主義を持久戰略に變更した理由如何

A。9Dの抽出に伴ひ上の樣な戰法が成立しなくなつたのが主なる理由で其の外捷一號の發動に伴ひ32Aの捷三號に關する任務は本質的に變化すべきだと考察したことも一因である

前述の如く一月二十日の作戰計畫並天號航空作戰計畫に伴ふ

の新任務を受領して居ない

唯一月下旬か二月上旬の頃諫山春樹中將（10HA参謀長）から前述の様に北、中飛行場確保に關する大本營の要望は傳へられたが長參謀長並八原作戰主任參謀は此の要望に應じ得ない見解を明確に披瀝した

次で10HA高級參謀村澤大佐來訪の節切に中央の要望に應へる様に慫慂されたその結果臺灣軍（10HA）から教導歩兵聯隊を增强せらるることを前提としそれが到著すれば該部隊と第11大/62Dを以て飛行場を死守せしめる若し該部隊が到著しなければ第11大/62Dは單なる警戒部隊として運用すると謂ふ話合ひをした

何れの場合でも軍主力を以て北、中飛行場確保のため攻勢を採る意志はなかつた

Q 〃死生の門〃「一九四五年一月迄44Bを北、中飛行場地區に配備したのは大本營の執拗なる攻勢要求に對して32Aが同旅團を支撐として北、中飛行場正面に軍主力の攻勢を採る意志を假表せんとする〃對大本營欺瞞〃の〃ゼスチュアー〃であつた様に書かれて居るが眞實か

A 若干そうした考もあつた（「死生の門」は誇張してある）大體左様である

計畫にも攻勢企圖をうたつて居るが其の意志は全くなかつた

Q 持久戰略に徹底することは軍首脳部間に完全に意見が一致して居たか

A 一致して居たと思ふ

例へば 一月下旬10HA參謀長が東京よりの歸途大本營の攻勢要望を傳へた時にも長參謀長は斷乎として不同意を唱へた

又一月頃北、中飛行場に配置してある44Bを事前に主陣地に轉進させて主陣地に於ける戰鬪準備の萬全を期すべ

きことを主張したのも長參謀長であつた

若い參謀は此の問題に就て深く思索し盡くして居なかつたかも知れないが軍司令官、參謀長、作戰主任の意見は一致して居た

Q 計畫の中に一應を攻勢の用意を掲げて置いたのは單なる中央を欺く〝ゼスチユアー〟として片づけるのは無理ではないか

A 殊に軍司令官の人柄に鑑み中央を欺く作戰計畫を決裁されることがないと思はれるか

此の計畫は十一月下旬計畫されたものでその時は狀況有利な場合は攻勢に出る考へもあつた特に軍司令官はその考へて決裁されたと思ふ

一九四五年初め軍首腦が配備を詳細に偵察檢討するに及んで攻勢の無理なことを自覺し44Bを主陣地に退けることになつた

Q 一九四五年四月四日米軍上陸早々軍首腦部間に早くも攻勢論が抬頭し之が採用されたのは前述の意見一致に鑑み不可能ではな

いか

A それは大本營からの再三に亘る激しい要望電報に依り軍司令官參謀長が統帥上の道に添はればならぬとの責任觀念から心境に動搖を來したからと思ふ

Q 之に關する八原參謀の當時の考へは

A 大本營の要望電報は命令とは考へなかつた一種の要望を披瀝したもので絶對的なものとは思はなかつた

Q 大本營10HAが嚴肅に命令の形式を踏んで居たら躊躇することなく實行したであらうと考へられるか

A 事前に大本營10HAが攻勢の要求を嚴命して居たなれば軍は當然出來る丈の準備を整へて攻勢の準備をしたであらう

10.

Q 米軍の北、中飛行場の利用を阻止する方法に就て32Aの考想は

A 飛行場に直接配備することなく主陣地の重砲兵を以て飛行場を

制壓するを有利と考へた

Q 如何なる砲兵を幾門如何なる陣地に配備したか

A 10Kを二門指向した10Kは一二門持つて居たが同時に使用すれば却て短期間に破壊せられる虞があつたので二門宛順次に使用することとした

Q 此の砲兵は飛行場制壓專任か　後方擾亂射擊の任務も持つて居たか

A 其の砲兵は中、北兩飛行場双方を有效に制壓し得たか其の陣地は北、中兩飛行場共に射擊出來た

Q 二門の10HAは飛行場制壓專門であつた　爾餘の10HAは豐見城附近に展開して居た

A 陣地は棚原東側高地の洞窟陣地であつた

一門は洞窟を埋沒せられ（15/4）一門は後退途中破壞された（20/4）

Q 飛行場制壓砲擊は幾何の效果を收めたか

A 20/4觀測所を失ふ迄有效に射擊を繼續した米空軍が北、中飛行場を有效に使用し初めたのは20/4頃からである之は砲兵射擊の效果があつたからだと思ふ20/4頃迄沖縄基地を利用する米飛行隊が天號航空作戰を著しく阻害したとは思はなかつた

11.

Q 32Aの砲兵力は

A 約四〇〇門であつた内二〇〇門は迫擊砲で重砲は15HA一六〇、10KA一一二で迫擊砲彈藥は一門（五〇〇～六〇〇發）重砲は一門（一二〇〇發内外）であつた

重砲兵部隊は指揮機關、部隊の訓練共に特に優秀で15HAは自動率引の　式榴彈砲兵であつた

若し他兵彈藥が三倍もあれば沖縄戦闘の經過は變つて居たであらう

一四

12.

Q 兵團の素質は

A 24Dは北海道で編成された師團で精鋭であつた

但し 12/4 4.5/5 の攻勢で打撃を受けた爲大なる戦果を示さなかつた

62Dは近畿編成の師團であるが作戦準備が好かつたので偉大なる戦力を發揮した

44Bsは1/2（15i）は精鋭であつたが1/2（第二歩兵隊）は素質が悪かつた

特設聯隊は装備は好かつた（比島向け滞留兵器利用）但し素質

上級立部隊としての戦力は低かつたが兵團に編入して相當の戦力を發揮した

13.

Q 獨立海上挺身戦隊の兵力、配備、運用、戦果如何

A 32Aには

a 一〇個戦隊あつた

一戦隊の連絡艇（丸八）隻數は定數一〇〇隻であつたが實動は平均八五隻位

一戦隊は三中隊

幹部は戦隊長、中隊長共に陸軍士官學校出身の精鋭青年將校で又その他の幹部も豫備役士官學校出身で優秀であつた

b 配備は宮古島に三ケ戦隊

沖縄に七ケ戦隊内三ケ戦隊は慶良間列島に、四ケ戦隊は本島に配備した

c 用法 慶良間の戦隊は一部突入し主力は島内に退却して了つた

本島は初期の集團利用が出來ず逐次使用になつた但

一五

し五月八、四月の攻勢に際し逆上陸に相當兵力を繰めて使用した

d 戰果は慶良間の戰隊は驅逐艦一隻撃沈その若干の敵艦船に損害を與へたと云つて居る

本島の戰隊は中型艦船一五―一六隻を撃沈したと報告したと報告を受けて居る

Q 海上特攻舟艇の效果に關する所見如何

戰局に決定的影響を與へる樣な乃至有利にする樣な效果を期し難い戰法である

七〇〇隻の舟艇を以て中小型一五（六）隻を撃沈しその他若干に損害を與へたと報告して居る程度で其の眞否も疑念がある

作戰前戰隊の幹部の感想を聞いて見たが彼等は自信を持つて居なかつた

但し沖縄本島に於ては全隊が敵艦船に突入した

米兵はスカンクと稱して五月蠅がつて居た

「註」米第五艦隊の報告 authenticated 大破四、小破二隻

14

Q 航空特攻の突入狀況と戰果の觀察如何

A 戰局に決定的影響を與へる樣な效果はない

大型艦に對しては決定的效果を收め得ない樣である

（一、二機の命中では死命を制し得ないのではないか）

戰後米軍の話では日本の特攻攻撃に依つて中小型艦船三〇隻が沈沒し二〇〇隻内外の大小破損害を報じて居る

「註」

a 米第五艦隊の報告に依る 14/3―27/5 間の損害は

特攻に依る撃沈	一九	大破	一一六	小破 六五
爆撃		大破	九	小破 一一
空中魚雷		大破	三	小破 一
標花撃沈	一	大破	三	